

これまでとは異なった仕組みと販売展開で活気を生んでいるところがいくつもある。

愛媛県今治市のJAおちいまばりの直売所「さいさいきて屋」は、兼業農家、主婦などを中心に農産物を販売、今では、動員140万人、売上23億円となった。

地元の農産物、米、肉、果実、魚介類までを徹底的に集積。レストランの料理、加工品、カフェのケーキも地元で作ったものをメインにするという方針。また商品をPOSで結び、売り逃しがないようにために商品集積を行っている。

島根県JA雲南は、中山間地の高齢者や主婦たちの農産物を集め、売れるスーパーや直売所に持ち込んで販売する産直を確立。POSを連動させ、スーパーのレジを通して個々人の売上が把握できる仕組みを築き8億円の実績をあげる。

群馬県の若手専業農家の集

『幸福な田舎のつくりかた』

地域の誇りが、人をつなぎ、
小さな経済を動かす



学芸出版社
四六判208頁
定価1,800円+消費税

まり野菜くらぶは、デパート、スーパー、食品店に直接営業をかけ、相手の必要とする野菜類を契約段階から作付計画を立てて生産することで、高収益と安定した取引を成立させた。

また新規就農者を迎え入れ、必要とされる作物に特化させて技術訓練を行い、会社が保証人になって土地の取得や資金援助をし、早期独立をさせ若者に農業の路を拓いた。

ほかに、伝統的野菜を大学が調査をし、それを新たな料理展開を飲食店が連携して地域ならではの食を打ち出した山形県、中山間地の450戸の農家の宿泊と農業体験を組み合わせ、修学旅行を年間130校の誘致を定着させた飯田市など、これまでになかった地域と食と農業の総合的な新たなマッチングで地域を元気にしている。これらのノウハウの共有化と政策への反映こそ、今後の地域活性に必要なだ。